

東日本大震災とその後の経営

(株)ぎおうハーブ
平 間 拓 也

自社紹介

(株)ぎおうハーブは宮城県の南西部に位置している蔵王町で主にハーブ苗を生産し出荷している会社です。

私は大学卒業後、実家の会社である(有)グリーンアトリエひらきゅうに勤めましたが、経営のバランスをとるには抜本的な改革が必要と考え、勝手に動いて色々な人に会って社会に対して自分ができる事を考え直す事を始めました。その後自分の決意で物事を動かす為に2011年の1月に(株)ぎおうハーブを立ち上げました。

現在の事業内容としては、市場外流通がほとんどで、ハーブ苗の段ボール出荷、ネギ・玉ねぎの抜き苗の段ボール出荷、物流センター納めの野菜苗出荷で、売り先はホームセンターが中心です。ガーデニング関係以外には、青果としてのハーブやドライハーブ、ハーブドレッシングを自社加工して飲食店や青果店へ出荷しています。

さらに直接遊びに行ける農場として自社農場での直販に力を入れています。ビニールハウスを利用して売店兼イベントスペースを作り、定期的にワークショップイベントを開いたり、農場でのハーブ摘み取りを受け付けたりして、遠くても訪れたい場所になるよう心がけています。蔵王連峰を一望できる所にハーブティー素材のカモミールの花畑を作って摘み取りの受け入れをしていて、地元テレビ局が毎年取材に来ます。現状ハーブ苗は店でまともに在庫されている季節は数か月しかなく、年中ハーブ苗が多種置いてある店がほとんどないので、何時間もかけてハーブ苗買いに来る人もいます。自社生産のハーブ加工品の他に、原料のハーブを納めている取引先のハーブ商品を仕入れて販売する事もしています。他には地元の人向けに一般的な野菜苗や花苗を生産販売していて、地元の人が苗を買いに来る場所にもなっています。



蔵王連峰を一望するカモミール花畑



自社製品

東日本大震災発生直後の状況

会社を起こしてすぐの2011年の3月11日に東日本大震災が起きました。事務所にいたら、聞いたことがないような音が携帯から流れて、ものすごい揺れで書類が飛び散り散乱し、ドアが外れました。外に出たらありえないほど電線が揺れて、ハウスの配管が破裂して水が噴き出し、地割れも起きていました。屋根は軽いので落ちてくる事はないかとは思いましたが、祖母が寝ている部屋のタンスが倒れると危ないので急いでそちらを避難させました。



震災の地割れ

翌日、ビニールハウスを会場にして、近所のシェフを呼んでイベントを企画していました。この状況で開催は無理ですよね？と、確認する為にお店に向かったら、信号は止まっているし道路は割れて通れなくなっている。想像以上に大ごとになるのか？と、考えつつシェフのところへ着くと、店はぐちゃぐちゃに散乱してそれどころじゃない様子。さらにそこで津波で海沿いの町がのまれた話を聞きました。にわかには信じられませんでした。イベント中止の連絡はできませんでしたが、翌日来た人はいませんでした。当然ですが。

この地震で電気も水道も携帯の電波も来なくなりました。その夜は何もしようがないので、余震対策に屋根が軽いプレハブ事務所に家族で移動して寝る事にしました。一晩したら電気くらいは復旧するかな？くらいのつもりでいたのですが、そんな甘いものではなかったです。

自分達が生存するという事に関しては不自由しませ

んでした。家のすぐそばに湧き水が出るので飲み水は確保可能、ガスはプロパンガスなので問題なし、トイレは水洗でなくいわゆるポットン便所なので問題なし、食べ物は米やじゃがいもが大量にあるので問題なし。震災発生後数日間はシェフが来て、冷蔵庫内の食材を無駄にしないようにビニールハウスで炊き出しをしてくれて、むしろ普段より美味しいもの食べていました。暖房に関しては灯油ストーブを使っていたのと、ハウスの暖房用に灯油タンク内に灯油が豊富にあったのでこちらも問題なし。

ファンヒーターやエアコンに頼っている家庭は電気が来ない事でそれらが動かなくて暖がとれなくて大変そうでしたので、余分にある灯油ストーブを貸し出しました。水がない人には会社にある水タンクに水を汲んで持って行く事もしました。ローテクな農家はそういう時しぶとく生きられますね。

それぞれのライフラインの回復に要した日数は、電気が5日後、携帯の電波が6日後、水道が13日後でした。植物の栽培に関しては、まず電気が来ない事がつらかったです。寒さに弱い植物はなかったので暖房機がつかない事は問題になりませんでした。電動ポンプが動かないので水やりする事ができない。ガソリンを燃料にして動く動力噴霧器を使って水やりする事で管理し続けました。出る水量が少ないので時間がかかる。ガソリンがなくなると水やりができなくなるので、ガソリンの残量にはピリピリしました。

数日後電気が復旧した事でとりあえず水やりの心配は要らなくなり、だいぶ気が楽になりました。今度は度重なる余震で、そのたびに地中に埋めてある水道管がずれて水漏れが発生しました。余震が続く間は頻繁に穴を掘って直す事を繰り返しました。そのうち面倒だから掘った穴は埋めずに。水道管パイプがずれた時に掘る作業を省略するなんて事になっていました。

携帯の電波が繋がらなくなっていた事で、安否を気にする人とも連絡がつかなかったのもやきもきしました。地震直後はつながっていたので、そのタイミングでブログにでも無事です情報を流しておけば無駄に心配かける事もなかったですね。今ならSNSにアップするのでしょうか、私はまだTwitterもFacebookも習慣にしていなかったです。意外な弊害としては、携帯の電波が繋がらないと、農場が点在している為、家族間の仕事の段取り等の連絡にいちいち車で移動して意思疎通をしていた事。いつもより余計にガソリンが必要になりました。

ガソリンが手に入らない期間が長期間に及んだ事が苦勞でした。ガソリンスタンド前には車がずらりと並び、朝一でスタンドに入店する為に車を車道に停めたまま帰宅して場所取りする人もいました。田舎はどこに行くにも車が必要になるので、日常生活に多大な影響がでます。県外までガソリンを買いに行く人もいました。経営という面から見た場合、ガソリンがないとスタッフが出社できない事、仕事が進まないという事が問題としておきました。需要期に向かっていく時期に生産が進まないのもつらかったです。

2週間以上宅配便流通が復活しなかった事も経営への影響が大きかったです。段ボールによる宅配便流通に頼っていたので、商品があっても出荷ができない。それが被災エリア以外の人からすると伝わりづらみたいで、予約を受けていた所からまだ出せないの？という問合せを受ける事もありました。あとから考えてみると、その時出せなくて供給が減った分は翌年以降の計画数にも影響して回復しませんでした。

地震の被害以上に問題として大きかったのは、隣県の福島原発事故問題です。震災直後に福島原発で事故が起こって放射性物質が流出したらしいと噂で聞いた時は、それがどのくらいの事態なのかかわからず、今ここにいて大丈夫なのだろうか？とか、今後ここにいられるのだろうか？と考えました。私は蔵王が好きでここに住んで事業をして生きる事に生きがいを感じているけど、場合によってはよそで生きる事も考えないといけない。よそでやる事には蔵王でやるほどのロマンを感じられなくて、自分が人生において何を大事にしてどう生きていたいのか？そんな事を考える日々でした。結果的にはなんとか許容範囲という所におさまりましたが、よそに移住した近所の人もいました。

取引における農産物の残留放射性物質について、具体的な問題として浮上してきたのは震災の翌年でした。福島の隣県からは仕入れたくないと苗の取引を断られる事もありました。青果ならともかく苗でそんな事あるの？と思いましたが、買うかどうかはお客さんが決める事なので仕方ないですね。その後何年かは土中の放射性物質の残留量の検査結果を提出して取引するのが主流になりました。

飲食用のものに関しては自治体で検査体制を作ってくれて、その結果の書面をそえて出荷する形になりました。そもそも残留基準がどうなのか？の議論もありましたが、現場としてはやれる事をやってお客さんに判断を委ねる形で商売しておりました。今は残留放射性物質について言及される事はありませんが、イノシシに関しては現在でも県の南端エリアで微量のセシウムが検出され、宮城県内のイノシシは食用として流通できません。食用にできない事によってイノシシをとるモチベーションが低下している事も、イノシシ被害の増大に影響を与えていると思われます。

震災後の経営のあゆみ

震災が起きた事で全国各地から宮城県に支援をいただきました。震災直後は被災地の商品を買って応援いただく動きが起きました。花卉研の先輩の花屋さんに呼んでいただいてハーブ講座のイベントを開催しつつ販売する事もありました。とてもありがたかったです。

震災前から、若手の農家を応援しようという機運はありましたが、それに被災者支援という意味合いも加わり、出会う人が一気に増えました。農家の後継者を応援する「農家のこせがれネットワーク」、東京在住の宮城ファンコミュニティT⇔MAP、東京で栄養士や調理師を育てている専門学校の食糧学院、震災をきっかけにうまれた生産者と消費者をつなぐ媒体の東北食べる通信など。



東京と宮城をつなぐT⇔MAP交流会

具体的に商品を仕入れてくれたり、販売先をつないでくれたり、ビジネスの勉強会を開いてくれたり、関わり方は様々でしたが、震災がなかったら出会わなかった人達のおかげで自分の世界が広がりました。中東から、ジャーナリスト集団が蔵王の農場に視察に来た事もありました。

お誘いが多い事もあって、震災後数年は勉強会やイベントに出ていく機会が多かったです。ブランディングを中心にしたビジネス系勉強会や商品企画に関する勉強会にはよく出席しました。経営者である前に一人のハーブ関係者としてのスキルを身に着ける為に、料理教室、メディカルハーブ教室、アロマ教室、マクロビ教室にも通いました。震災を機に宮城の食関係者と生産者をつなぐイベントも増えたので、飲食店と生産者で連携してお客さんに料理を提供するイベントや、生産者が食材を持ち寄って消費者に料理を提供するイベントにも参加しました。

被災者応援の他にも、震災をきっかけに今までの社会で前提とされていた価値観が見直されて、顔の見える関係性や生産物にこめられた哲学や物語を大事にする人が増えた事も経営に影響しました。震災前から、顔の見えるお客さんを作る事や、自社生産のハーブを活かした食の分野への参入、ハーブ文化のパイを拓ける事を意識しておりましたが、震災後その考え方やマッチする人が増えて連携できる人が増えたので、そちらにかける比重を大きくして新しく始める事が増えました。

スマホの普及も経営に影響しています。もともとネットでの情報発信はしていましたが、それがお客さんに届きやすくなり効果が実感できるレベルになってきました。最近では自分の企画のイベントをSNSのみで告知してもある程度お客さんが集まるようになり、集客のハードルが下がった事で、少人数イベントを開催しやすくなり、それを広報する事で新たに興味を持つ人が現れるという流れになってきました。

美味しいものを食べたいという動機で通い始めた月一料理教室も、10年通っているとノウハウとして仕事に活かせるようになりました。今はハーブを使った料理を作って食べて体験していただくワークショップも開催しています。



自社のワークショップの様子

今年になってコロナの影響で飲食店向けのハーブの出荷が激減しました。園芸業界で売上が立ちづらい季節の仕事として、経営のバランスをとる事に寄与していましたが、あてにはできなくなりました。フレンチレストランに料理を彩る為に使うハーブの花を提供する事で、ガーデニング素材も生産するハーブ屋ならではのビジネスモデルが作れるのではないかと、次の展開として考えていたのですが、思いもしない事が起こるものです。飲食店売上は落ちましたが、代わりに巣ごもり園芸需要が伸びた事と、ネットでの販売が増えた事、密集する所を避けて蔵王の農場に遊びに来るケースが増えた事で多少はカバーできました。三密の心配が少なく取材しやすいという事でメディア露出が増えるという事もありました。数年前に宅配運賃が高騰した事で遠くのエリアに宅配便で出荷するモデルが厳しくなりましたが、よそから来る荷物も減ったので、地元の需要に対応するものを作る事でバランスが取れた事もありましたが、何かが起きて社会が変わる時は別の可能性が生まれる事がありますね。

震災が起きた事で失ったものもありますが、それがきっかけで知ったもの見えたものがあったので今の事業に生きています。おそらくこれからも色々な事が起きるのでしょうが、その都度できる事の引き出しを増やしていきたいとふとく対応して生き延びようと思いません。ハーブによってちょっと幸せなライフスタイルを提供する事で、社会が少しでも良くなる事を願っているので、社会の変化に合わせ、今後も一人のハーブファンとしてハーブの楽しさを掘り下げて広めていく努力を続けていきます。